

企業アーカイブズの多様性を探る

2018年度図書館基礎特論「アーカイブズの基礎」レポートより

松崎 裕子（立教大学兼任講師）

筆者は2018年度の学校・社会教育講座司書課程図書館基礎特論において「アーカイブズの基礎」をテーマに授業を行った。

日本では2009年に初めて公文書管理に関する法律「公文書等の管理に関する法律」が制定され、これを機にアーカイブズとアーキビストに対する社会的関心は高まりつつある。米国ではライブラリアンの養成課程の中にアーキビストの養成も含まれることが多く、ライブラリアンになるトレーニングの過程で、アーカイブズとアーキビストに関する基礎的知識を習得することは普通のことである。その他の諸国においても情報に関わる専門職であるなら、アーカイブズとアーキビストについての基本的な機能と役割について理解しているものである。これとは対照的に日本では、アーカイブズすなわち「永続的に保存する価値を持つ記録」の管理とそれに携わる専門職であるアーキビストの養成に関しては、アーカイブズの類縁機関である図書館に関する教育や、その専門職である司書養成教育の中ではほとんど扱われてこなかったのが現状ではなかろうか。このたび立教大学司書課程でアーカイブズの基礎を教える機会を与えられ、これに感謝するとともに、情報専門職としての司書資格取得を目指す人々には、アーカイブズに関する理解を深めていただきたいと考えている。

2018年度の授業では、筆者は記録管理とアーカイブズ管理に関わる制度整備が現在発展途上である日本において、アーカイブズに関する深い知識は二つの点で司書・実務家としての価値を高めるといふ点を何度も強調した。一つは多様な情報資源の一つとしてのアーカイブズの存在とその特性を知ることによって、レファレンス業務が豊かなものになるという点である。もう一つは、アーカイブズに関する知識を持つことは、いかなる組織で働く場合であろうとも、記録と情報に関わる経営事項においては、組織内での優位性をもたらす、という点である。なぜならば、アーカイブズの管理とは「組織で生み出され、外部とやり取りされる記録と情報の管理」に関わるからである。

授業では国立公文書館、地方自治体の公文書館、コミュニティ・アーカイブズといった様々なアーカイブズとデジタルアーカイブを取り上げた。筆者がとりわけ力を注いだのは、十数年にわたって公益財団法人渋沢栄一記念財団情報資源センターの企業史料プロジェクトとして啓発活動が続けてきた企業アーカイブズである。多くの学生にとっては企業にアーカイブズ、文書館業務が存在するとは思ってもよらないことであろう。しかし、日本では会社史編纂の歴史的伝統を背景に、デジタル時代に入り、少なくない企業が社内アーカイブズ整備に取り組んでいる。このような状況を理解し、また公文書館とは違った企業アーカイブズの特性を理解するという目的から、企業アーカイブズに関する2つの文章を読んでもらい、そこから企業アーカイブズの多様性とその要因を考えてもらった。ここではその中から優れたレポートを二つ紹介したい。

課題は次の通り。

キリン・アーカイブとシミズ・アーカイブズに関する文章を読んでください。

松崎裕子. アーカイブズ探訪記 (第1回) キリン株式会社：データベースを核に多彩な歴史情報を積極的に発信. *Muse*：帝国データバンク史料館だより. 2017.9, (30), p.8-10. http://www.tdb-muse.jp/report/Muse_No30all.pdf, (参照 2019-2-28).

松崎裕子. アーカイブズ探訪記 (第 2 回) 清水建設株式会社: ものづくりの伝承と挑戦を支えるアーカイブズ. Muse : 帝国データバンク史料館だより. 2018.2, 31, p.4-6.
http://www.tdb-muse.jp/report/Muse_No31all.pdf, (参照 2019-2-28).

さらに両社のウェブサイトのヘリテージ、歴史関係ページを閲覧して、違いについて考察し、述べてください。

清水建設：企業情報>シミズについて>会社概要
<https://www.shimz.co.jp/company/about/outline/>

キリンビール：企業情報>キリングループの歴史
<http://www.kirin.co.jp/company/history/>

エンタメ・レシピ>キリン歴史ミュージアム
<http://www.kirin.co.jp/entertainment/museum/>

なお、「永続的な価値を持つ記録」と「それを提供する機関・機能・仕組み」を意味する archives は、日本語では「アーカイブズ」であり、これを研究対象とする学会として「日本アーカイブズ学会」が存在する。しかし、デジタルのみを対象とする場合や、組織や機関の名称として「アーカイブ」という日本語も利用されている。レポートでは、課題用文献で扱っているそれぞれの組織・機関、あるいは担当者が自ら名乗っている名称をそのまま用いている。そのため「アーカイブズ」と「アーカイブ」が混在している。